

下出祐太郎 経歴

下出 蒔絵 司 所
Shimode makie-studio



- ・下出蒔絵司所三代目
- ・1955年京都市生まれ
- ・博士(学術)・伝統工芸士
- ・即位礼や大嘗祭の神祇調度蒔絵や、第61・62回伊勢神宮式年遷宮御神宝蒔絵を手がける
- ・京都迎賓館では水明の間の飾り台「悠久のささやき」等を制作
- ・第14回～第37回日展24回連続入選 以後フリーで活動
- ・京都市芸術新人賞等受賞多数
- ・京都産業大学文化学部京都文化学科教授
- ・外務省日本ブランド発信事業によりヨーロッパ3国で講演及び実演
- ・後継者育成に力を注ぐ一方、漆芸の研究、漆や文学の講演、執筆活動にも取り組む

工房紹介

蒔絵を中心とした制作や修理修復を活動の柱としています。こだわりは、あくまでも伝統技法。印籠の修理から大型パネルの創作まで、多くの弟子とともに、日々新たな取り組みにチャレンジしています。ほかに文化財の調査や保存修理を手がけ、研究活動にも力を入れています。

工房の歩み

大正4年、初代祐顕(本名・才一郎)が、京都市下京区で開業。師は水橋氏で、六角紫水の流れをくむ。二代祐堂(本名・行雄)、三代祐太郎と続く。平成27年創業100周年を迎える。祐顕、祐堂と「現代の名工」を受章。祐堂は勲六等瑞宝単光章受章。代々、京都府仏具協同組合に所属。